

第17回「鍵山教師塾」in 東京  
テーマ「平和の時代の行き方を問う」  
平成31年3月30日（土）靖国神社

鍵山相談役のご挨拶

① 村田先生（00:00~11:47）

村田 本日司会を務めさせていただき、埼玉便教会の村田と申します。宜しく願い致します。本日は本当に天候にも恵まれまして、なぜかこの鍵山教師塾の時に桜がいつも満開になる。うまいようになっていきますね。桜に囲まれた中、みなさん清々しく掃除されて、そして昇殿参拝されて、なんかすごくすっきりした気持ちになっているのではないかと思います。そしてこの後は、鍵山先生にお話しいただき、白駒先生からは和の心についてお話しいただいて、井口先生の方に、また生物学的教育学についてお話しをいただきます。そしてすっきりしたところで、執行先生の毒を食らってもらいます。そこでまた暗くなっていただく、そういうスケジュールになっております。

今日は掃除をしていただき、本当にありがとうございます。わたくし、靖国神社に成り代わって御礼申し上げます。わたくし、去年も言ったかもしれませんが、皆さんが石畳を磨いてくださっているのを見ていると、私がきれいにしてもらっているような気持ちになっています。本当に、よくぞ日本全国からお集まりいただいて、朝から、本当にきれいにしていただいたなと思います。やはり、掃除も、こうやって、これは自分だと思ってやると丁寧にできるんですかね。そして、昇殿参拝もして、清々しくなったと思います。ただ、私たちが忘れていけないのは、これで、ただ講演を受けて良かったのではなくて、本当はあの掃除は、こういうイベントではなくて、日々、毎日のように、一人でもやる。そういう気持ちを持つことが大事なのではないかなと、自分では思っています。そして昇殿参拝されましたけれども、あのお祈り、気持ち、感謝。そういったものは、靖国神社に任しておいて良いものではないですよ。私たちが本当は日々、心新たにすべきものだと思います。まあ、いろいろなことを感じられる塾であると思います。周りには全国から集まって来られた皆さんがいます。本当に、講師の皆様は、本当によくぞこんな集まってくださったなあというくらいの講師の先生方です。ぜひ今日は一日、有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

それではこれより第十七回鍵山教師塾を始めます。よろしく申し上げます。

一同（拍手）

村田 では、開会に当たりまして、国歌斉唱をしたいと思います。皆さん、ご起立をお願いします。狭い中なのですが、椅子を引いていただきまして、正面に向かっていただきまして、前奏に引き続きご唱和をお願いします。

一同 (国歌斉唱)

村田 ご着席ください。では、初めに、鍵山秀三郎相談役にお言葉をいただきます。

鍵山 皆さん、こんにちは。

一同 こんにちは。

鍵山 今日は、靖国神社にお越しいただきましてありがとうございます。本当に嬉しゅうございます。皆さん方のような方がいらっしゃることで、日本の国はまだこれからも大丈夫だという気持ちを持ちました。ありがとうございます。病がですね、発生してから、もう三年半経ちました。本当だったら、もっと今頃良くなっているはずなんですけど、残念ながらですね、黙って座っていればわからないんですけども、こうやって立ったり、あるいは話をしたりするとですね、すぐ病の重さが、皆さんにおわかりいただけだと思いますけども。残念ながらですね、改善の見込みは、まだ立っておりませんので、こんな見苦しい姿で、皆さんの前に立ちまして、申し訳ありません。

今、日本の国はですね、私が改めて申し上げるまでもなく、世相ですね、社会相。社会ってもののレベルがですね、どんどんどんどん悪くなっております。私は昭和八年に生まれてですね、昭和十九年、十一歳まで東京にいました。昭和十九年というんですね、東京も爆撃をされるというんですね、そういう時代ですけども、その時の方がよほどですね、日本人は穏やかで、争いも少なく、みんなが助け合って生きているという世相であったと思います。ところが、今のようにですね、物やお金が豊かになって、世の中が便利になってくるに従って、だんだんだんだん人の心がですね、衰えて参りまして、そのことによる犯罪が後を絶たなくなりました。特にですね、児童虐待。自分のかわいい子供もですね、虐待して死に至らしめるなんていうことはですね、かつてなかったことですが、このことがだんだん増える傾向にありまして、そのことを思いますと、文科省や厚生省が統計で何人になって、前よりも何%増えたという統計数字で表しておりますけれども、私はその一人一人のことを思いますとね、もう、心が痛んで痛んでしょうがないんですね。なんとかこんなことが起きない世の中に、少々経済が衰えてでもですね、世の中が良くなって、みんな子供たちが穏やかに暮らせる社会にしてほしいと思っております。幕末から明治にかけて日本を訪れた外人がですね、外国の人が、日本ほど子供が大切にされている国はないと。よその国では、これほどですね、子供が大切にされていない。稀な国だというふうに、口を揃えて言っておりますけれども、残念ながら、今はですね、無抵抗で、何の力も持たない子供がですね、犠牲者になるという痛ましいことがですね、次々と起きておりまして、こんなことはですね、何%じゃなしに、一人も起きないように、一人として犠牲者が起きないようなそういう社会にしてほしいと思うんですね。

で、今日、この会にお集まりの皆様方が中心になって、お一人お一人が周辺を含め

て、少しでもこの世の中を変えていこうという、そういう行動をとっていただければ、必ず良くなっていくと、私は確信をしております。たくさん皆さんにお願いをしたいことはあるんですけども、社会のですね、たとえば、家庭であれば家風、学校であれば校風、社会であれば社会相、世相、これがですね、穏やかで、みんなが慈しみ合うような社会にすることが一番の幸せの素だと、私は思っております。そんなことを念頭に置いて、皆さんにご活動いただきますことをお願いいたします。

今日はですね、遠くから井口先生もお越しいただきました。執行草舟先生もお越しになっておられます。白駒日さんがですね、久しぶりにお会いしましたけれども、この塾のためにお越しいただきましてありがとうございます。どうか、今日お三方からの教えを、皆さんが胸に秘めて、ただ自分だけがそれを持って帰るのではなしに、その御教えを世の中に広めていっていただきたいですね。それが、今日の私からの、皆さんへのお願いでございます。

私も、今、病を克服するためにですね、努力をしております。朝四時半に起きて、約一時間くらい、自分のできる体操をですね、繰り返し繰り返し毎朝やっておりますね。それはなんとか復帰してですね、皆さんと一緒に行動できる体になりたい、これが私の願いでございます。そして、元気な姿で皆さんにお目にかかれることを肝に銘じております。どうかよろしく申し上げます。今日はありがとうございます。

一同 （拍手）

村田 鍵山相談役からのお言葉でした。有り難うございました。では、続きまして井口先生の講演に入りますが、この後会場の準備がございますので、皆様におかれましてはせっかくの機会ですので、この準備の時間を使いまして練り合いを、横並びの三人で情報共有していただけたらと思います。